

月報

10号

発行所

青丘文庫

発行★韓 哲 職 編集★金 慶 浩
〒654 神戸市須磨区千歳町4丁目1-3
エバーグリーンビル5F
TEL (078) 734-5989

パソコンで人名録

堀内 稔

私は、人の名前を覚えるのが苦手である。朝鮮近代史に取り組むようになってからも、出て来る人名がさっぱり覚えられない。とくに朝鮮人の人名の場合、最初は読み方もあやふやだったせいか、なんど出て来てもどこかでみたような名前だな、という程度にしかならなかった。

そこで、共産主義運動を研究しはじめたとき、人名カードをつくることを考えた。人名を覚えやすくすること、必要な人物がすぐに探し出せることが目的であった。これはすぐに実行に移し、『朝鮮共産主義運動史』と『歎きの朝鮮革命』にでてくる人名を、片端からカード化した。八百枚ぐらいたまつただろうか。しかし、カードを作成するのには時間がかかる。本命の『韓国共産主義運動史』に手をつけられないまま中断していた。

ことしの四月にパソコンを買ったが、買おうと決心したのは、もちろんワープロとして使いたかったこともあるが、この人名の整理にパソコンを利用しようという考えがあったからだ。

そこで、過去につくったカードをそのまま入力できるときのカード型データベースのソフトを買った。これは、きちんと入力さえておけば、必要な人物がすぐに取り出せるし、ある事件に関係した人物すべてを抜き出すなどできるというものだ。

ここで考えることは、こうした人名録なり、歴史的事件、あるいは書籍のデータを青丘文庫が蓄積し、それをみんなが利用できるようなになればどうだろうか、ということである。データを入力するのには、多大の労力を要する。個人の力では無理だから、共同作業するのである。必ずしも不可能なことではないと思う。

問題は、どのような形でデータを入れれば、いちばん使いやすいのかということだ。一度カードの形式をつくってしまうと、あとで変更するのはなかなか難しい。また、カードの容量も問題である。多くの人を使うには、大きな容量でなければならぬから。これは、パソコンの能力とも関連する。この点、私が現在つくっている人名録は不安が残る。

この作業は、いわば辞書をつくるようなものだが、同種のパソコンさえあれば共同作業は容易だ。誰かこの作業を一緒にする人はいないだろうか。

★ 研究報告

在日朝鮮人運動之研究(西田公)(第七三曲)

『報告』 伊藤悦子氏 (一九八五・一〇・一三)

『テーマ』 「一九三〇年代を中心とした在日朝鮮人教育運動の展開について」

解放以前においても、在日朝鮮人による自主的教育機関が存在していた。それらの教育機関の史料적に掘りおこしと直接の目的とし、掘りおこすことのできた夜学の経営主体の分析と教育内容を把握することで、それら夜学の教育の姿を明らかにしようとした。

夜学は、労働団体の経営する夜学を一つの源流とする。早い例では一九二〇年、東京で労働夜学が開催されている。こうした労働夜学は当初、終戦の域を出なかったが、五年の在日朝鮮労働者同盟設立後は、プロレタリア教育の内容も含んでいくようになる。

この流れとは別に、朝鮮語教育を主目的とする夜学校も経営された。二四年の大阪の勉学院をはじめとし、二八年浪華学院(大阪)三〇年高田学院(東京)、普成学校(要知)、三二年関西共鳴学院(大阪)などがある。このうち共鳴学院は、集住地である東成区北中

中浜町に独立した校舎を構え、収容児童は百五十名の規模であった。同学院の開校時には全員の奨励金もあり、ここでは民族教育と階級教育がともになされていることから、同学院を労働夜学の延長とみなすことができる。

愛知県の場合は、会報にわたる詳細な夜学の史料が見いだされた。『特高月報』三五年九月にみれば、愛知県下の簡易夜学は一九校、児童一〇四三名である。また同年八月二十四日『東亜日報』によれば一六校、うちキリスト教系二校、融和主義系三校、共産主義系四校、民族主義系一校、不名六校である。夜学の経営主体の多様性をこのころうかがうことができる。

以上の夜学のはとんどは難民によって発起せられたが、難民の目をくぐり抜け、一九三五年以降四三年まで、夜学が実践されていることが確認された。

夜学の多くは他の社会運動との関連を持つ、とくに一九三〇年代の官憲史料に表われた夜学の多くは、左翼労働運動との関連が強い。それら夜学の教育内容は、民族教育と階級教育の相方がないまじりとなっており、当時の運動内容を反映しているといえる。

今面、限られた史料の中で教育実態の流れをあとづけたが、今後を前々書き第幾回で史料補充をする(一)、民族教育の概念を吟味していきたい。

朝鮮民族運動史研究會 一九八五・六・五・報告より

報告者 水野直樹氏

テーマ コミンテルン第七回大会と在滿朝鮮人の抗日闘争

一九三六年に結成された在滿韓人祖国光復会については、これまでも金日成の指導による結成という点が強調されてきた。

たしかに長白山地区に根拠を置いた同会の革命的な指導者が金日成であったことは確認できるが、結成にいたる経過はそれほど単純ではない。一九三〇年以降、滿州在住の朝鮮人共産主義者は中国共産党に加入することになった。しかし、中共の方針には少数民族としての朝鮮人の地位への配慮が見られなかった。朝鮮の独立と主張する朝鮮人が、日帝のスパイ組織「民生団」のメンバーと見なされ逮捕される事件も起きた。一九三五年、中共滿州党組織の幹部魏丞民らは、民生団の過激な主張するために、朝鮮人に對する方針を再検討し、高麗少数民族の自主権を強調しはじめた。

この新しい方針は、コミンテルン第七回大会に参加した魏丞民と、コミンテルン駐在中共代表團の王明らとの間で確認されることになった。反ファシヨ人民路線の路線を提示したコミンテルン第七回大会が、植民地・反植民地における少数民族の

向題に言及して、それが反帝人民路線を形成する要素であることを明らかにしたことも、魏丞民を励ましたと考えられる。

コミンテルン機關誌『共産國際』に掲載された楊敏、東北人民反日統一戦線を論ずるは、中共が「高麗韓人自治の建設」に「韓国民衆革命党の成立をスローガンにしなければならぬ」と述べ、魏丞民、王明らの新方針を打ち出した。魏丞民はこの方針を滿州に持ち帰り、向島から長白山地区に移動中の東北人民革命軍（抗日連軍）第三軍に伝えた。これによって成立したのが在滿韓人祖国光復会である。祖国光復会は、向島で決った朝鮮人の支援を獲得するために中共指導下に作られた大衆団体であったが、これを通じて金日成の名は朝鮮國內にも広く知られることとなったのである。

（詳細は、『歴史評論』四三三号、一九八五年七月、掲載の拙稿を参照して下さい。）

★ 次回案内

① 在日朝鮮人運動史研究関西部会例会（第三回）

報告者 藤井幸之助氏（一九八五・一・一〇・田二時）

テーマ 解放後の日本における朝鮮人学校の国語の教

育について

② 朝鮮民族運動史研究會 (第10回)

報告者 姜在秀氏 (一九八五・一一・一六・二) 3期)

テーマ 東北人民革命軍第一軍成立について

★ 最近八庫書籍案内

- ・災害と今年三回 ニールバークン著 北原泰三訳・新評論社
- ・今年三回と未来社会 ピーターワズレイ著 吉田正紀訳 紀伊国屋
- ・日本のユートピア思想 安永壽造著 法政大学出版局 71・A5 ミニマ
- ・異邦人は君に來てー朝鮮人街猪飼野の形成 金蔭灯著
- ・一九二〇年代朝鮮の社会主義運動 金蔭製化著・未来社
- ・韓国南北女性列伝 崔恩喜著 85・正音社 45 ミニマ
- ・韓国民族主義論Ⅱ 朴玄燦他 85・龍作社批評社
- ・憲法規程(三) 在日朝鮮人聯盟中央本部 46・年
- ・本国特許委員報告(輯) 46・年
- ・解放年誌(九四八) 解放新聞社 46・本社出版局 (コピー)
- ・北韓・中共関係(45・85)(英文) 45・韓國研究院 44
- ・韓國年報 38・40・金聖持編 45・一志社 (40号・46号は自取有)
- ・金大史学9輯 金大史学会編 85・(独島特輯号)
- ・韓國史研究 46・54 韓國史研究會編 85・A5 45・11
- ・歴史學報 103・106 軍河洋行編 45・歴史學會 A5・

- ・共同体文化 2冊 朴元植他著 45・11 朝鮮文化公報 84・
- ・한글사연구 (3) 송전호他著 45・한글사 85・A5
- ・史學研究 35・38 史學研究會編 45・同會 A5
- ・민중 (2) 宋建鎬他著 45・독서출판青史 85・A5 25P
- ・연변조선족자치주개항 45・독서출판 84・A5
- ・연변자치지리 鄭德權著 45・A5 312P
- ・조선족혁명사건 朴昌昌編 沈阻 遼寧人民出版社 83・
- ・중국의 황하문 조선의 역사관들 柳樹人著 45・84・A5
- ・해동의 개나리 (조선사학총서) 宋植煥編 45・83・A5
- ・장백의 삼수들 (연변열사전) 45・85・A5
- ・려사사전 朴玄一編 正立人民出版社 84・A5 45・3頁
- ・海を合して(日韓条約三事を検証する) 外行委員会 現代社 85・B6
- ・韓国・日本・大村収容所 朴順兆著 大阪JPC 82・B6 219P

★ 在日朝鮮人史研究 15号が出版された。

お願

今回の「在日朝鮮人運動史研究會」は来る満八年を迎える事に際し、色々とお断りしたいことがあつたので研究會員の方は万障繰合せて全員出席して下さいらうお願いいたします。